

サステナビリティ方針と優先課題

ユニチカグループは2022年にサステナビリティ委員会においてサステナビリティ方針を策定し、同年4月の取締役会にて承認されました。この方針は、経営理念とグループのミッションをサステナビリティの観点から捉え、具体化したものです。[図①参照](#)

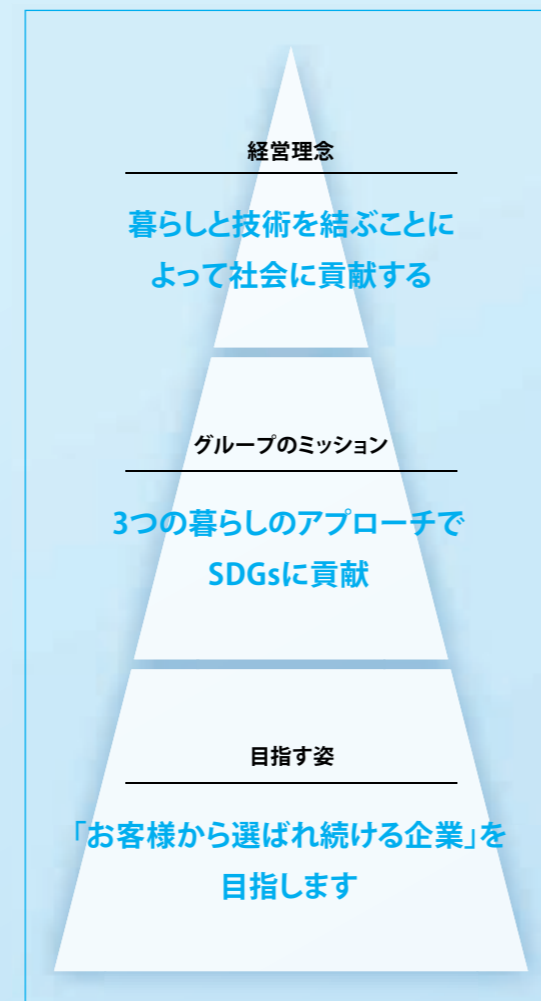
このサステナビリティ方針の下、解決に向けて取り組んでいるのが8つの優先課題(マテリアリティ)です。製品が持つ価値に関する優先課題として定めている3つの「事業に関する優先課題」は、ユニチカグループが事業を通じて社会で実現したいグループのミッションそのものです。災害や事故、犯罪、健康被害などから人々を守るための製品や、デジタル化や多様化する生活習慣に対応する製品、CO₂削減や省資源、環境汚染防止に貢献する製品を提供することによって解決を目指します。

5つの「企業活動に関する優先課題」は、事業活動を遂行する上で配慮すべき、さまざまな課題です。具体的には、環境に配慮した企業活動を行うことや、全てのステークホルダーの人権の尊重、従業員の健康的な生活の確保と多様な人材がやりがいを感じて働くことのできる環境の整備、サプライチェーン上のリスクの発見と回避に努めることを掲げています。[P31-32参照](#)

優先課題の策定プロセス

優先課題の策定に当たって、まず、持続可能な社会を実現するためにユニチカグループが既に取り組んでいることと、これから取り組むことをSDGsのゴールターゲットとGRIスタンダードに照らしてリスト化しました。これらの取り組みをグループ化した上で、SDGsの目標年である2030年までの達成すべきことを課題として抽出しました。そして、これら課題それぞれについて、リスクと機会、バリューチェーン上での位置付けを検証し、重要な項目について絞り込みました。最終的に、これらの項目をステークホルダーにとっての重要性とユニチカグループにとっての重要性という2軸のマトリックスで整理し、優先課題(マテリアリティ)を特定しました。また、「優先課題の前提となる基本事項」についても4項目設定しました。なお、これらの項目については、経営会議にて承認されています。[図②③参照](#)

① 経営理念体系／サステナビリティ方針



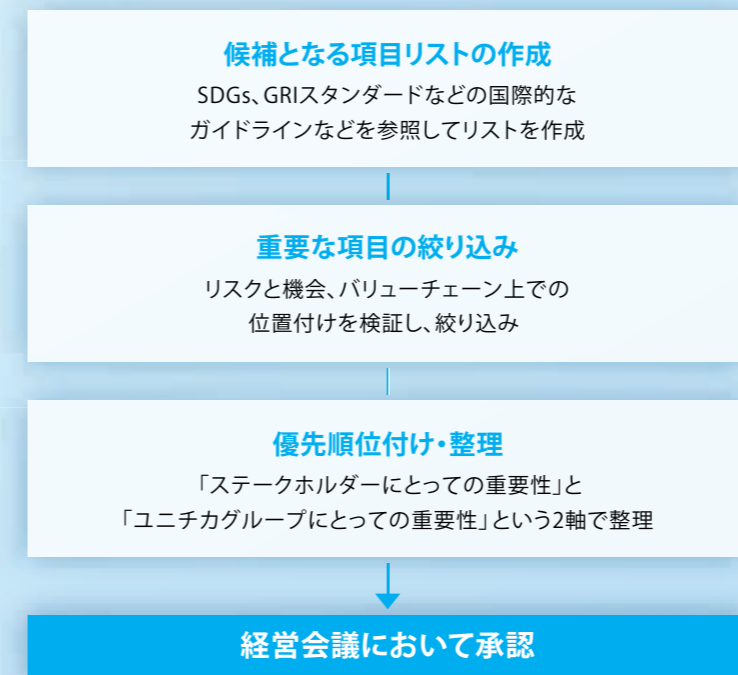
具体化

サステナビリティ方針

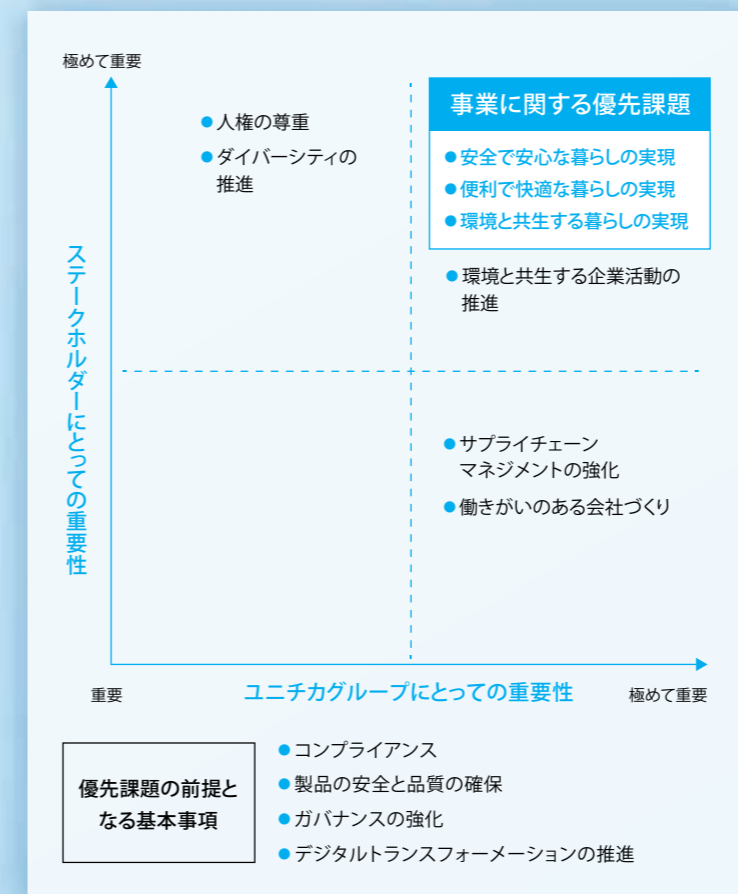
ユニチカグループは
事業活動を通じて
暮らしと技術を結び、
サステナブルな社会の実現に
貢献していきます。

優先課題(マテリアリティ)

② 優先課題特定プロセス



③ 優先課題マトリックス



ガバナンス

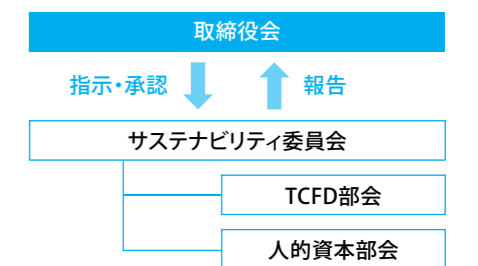
ユニチカグループの優先課題とそれに対応する指標(KPI)と目標値を実現するために、2021年12月に実行組織として「サステナビリティ委員会」を設置しました。

全社的に取り組みを進めるため、代表取締役社長執行役員藤井実(委員長)、三須修一、藤本慎司、奥大和の4名の取締役と執行役員2名、グローバル推進事業部長の合計7名が、各セグメント担当などの部門のトップとして議論を行い、ユニチカグループの優先課題、目標、指標および目標値の実現に向けて妥当性の評価や指標に対する目標達成のための推進策の立案などを行っています。委員は全体を統括するだけでなく、KPIの責任者として進捗状況を監督しています。

委員会は年1回以上開催し、その議論内容は取締役会に報告され、指示・承認を受けることとされています。

また、同委員会の下に、TCFD提言に基づく開示を進めるTCFD部会、および人的資本に関連したKPIに対する目標の達成を目的とした人的資本部会を設け、体制の強化を図っています。

ガバナンス体制図



リスク管理

ユニチカグループの優先課題の1つに「環境と共生する企業活動の推進」があり、この中には気候変動リスクが含まれています。

サステナビリティ委員会は、必要に応じてこのリスクの妥当性を評価しており、気候関連を含む新たに特定したリスクについては重要と判断するものを取締役会に報告しています。